

中学生の茶道体験

伝統文化から 日本の心を学ぼう

市制施行50周年を契機とした「豊かな田園都市」の実現に向けた「日本文化次世代継承・育成事業」として、市内4中学校の2年生約1,000人を対象に「茶道体験」が行われています。



北野 宗道さんによる講話

市制施行50周年に日本文化の第一人者として活躍している茶道裏千家15代 千玄室 前家元の記念講演が開催されたことを契機に、市内4中学校で裏千家淡交会全国巡回講師の北野宗道さん(市内在住)と講師2人を招いて、「茶道と人間力講座」と題した授業が行われました。

日本の伝統文化である茶道の歴史や考え方から、おもてなしの心や人としての生き方などを学んでもらう目的で、北野さんの講話の後、実際に干菓子と抹茶をいただく茶道を体験しました。

この事業はふるさと納税の寄付などを財源として創設した「市制50周年豊かな田園都市守山文化振興基金」を活用した文化振興事業の一環として行われるものです。



生徒のために茶を点てる講師

北野 宗道さんの講話(要約)

茶道の歴史は伝教大師(最澄)〔延暦寺〕が茶の種を初めて中国から持ち帰ったことから始まり、後に栄西禅師〔建仁寺〕が中国から茶の種を持ち帰って武士階級が飲むようになりました。お茶は薬として広まったので、今でも「一杯」ではなく「一服」という言い方をします。

千利休が確立した茶道は禅語の「和敬清寂」を目的としています。難しい言葉のように思いますが、人が幸せに生きるための考え方や方法を説くものです。

人が幸せに生きる考え方として「嘘をつかない」「見栄をはらない」「弱い人を助ける」「人の悪口を言わない」です。その方法は茶道にあります。お茶は体に良く、自分を冷静にする効果があります。体に良いお茶を独占せずに人と分かち合う心を「利他の心」といいます。

人の生活に重要なのは、経済と文化です。経済とは仕事、文化とは心を養うことです。日本の伝統文化である茶道には、利他の心を持って皆が仲良くし、居心地の良い環境を作る力があります。



講話内容をかみしめながらお茶を飲む生徒